



メジャーリーグに「アルファ」はあるか？

2003年に「マネー・ボール」が出版され、その中で野球の様々なプレーを「勝利への貢献度合い」という視点で統計学的に分析する手法、いわゆる「セイバーメトリクス」が紹介され一躍注目を浴びた。

マネー・ボールが出版された当時の初期のセイバーメトリクスは、一見地味だが実は勝利に貢献するプレー、攻撃では「アウトになりにくい」プレー、守備では「アウトを取りやすいプレー」という観点で選手の能力を再評価したのである。この

観点から高い評価を得る選手は、概して注目を集める選手とはいえず、相対的に低い年俸に甘んじていた。マネー・ボールに登場する貧乏球団オークランド・アスレチックスは、セイバーメトリクスを駆使して、「バリュー投資」戦略をとったのである。そして2002年には、年俸総額1位のニューヨーク・ヤンキースのわ

ずか1/3程度の年俸で、全球団で最高の勝率を上げるという成功を収めた。この成功を目にした他の球団もセイバーメトリクスを相次いで導入した。その結果、選手の「価格調整」が進んでいき、オークランド・アスレチックスのアルファは飲み込まれてしまった（2007-2011年には勝率5割以下と低迷）。

セイバーメトリクスはその後にも研究が進み、より一般的な「選手の適正コストの推計の精緻化」という方向に発展していく。ブレイクスルーをもたら

したのは、MIT出身のソフトウェアエンジニアのキース・ウールナーである。ウールナーは選手能力のリスク・リターンを定式化しようとした。彼は「追加コスト無しにいつでも簡単に獲得できる平均レベル以下の選手の想定成績」、いわゆる「リプレイメント・プレーヤー（代替選手）」という概念を導入した。これは一種の「リスクフリーレート」として機能する指標で、この架空の「平凡な成績」と比べて、どの程度の「超過リターン」を安定期に

生み出したのかを選手の勝利貢献能力として評価するのである。

現在、選手を総合評価する指標として最も使われている「WAR (Wins Above Replacement : そのポジションの代替選手に比べてどれだけ勝利数を上積みしたか)」はまさにこの「超過リターン」を表した指標である。年俸やトレードの成否はWAR

を目安に決まっているとと言っても過言ではない。

新しい手法で成功を収めたところが出てくると、他が「右へ倣え」をするのは投資の世界でも野球でも同じかもしれない。その中で、セイバーメトリクス生みの親のオークランド・アスレチックスは「未知数」の生え抜き選手を育成する強化方針に切り替え成果を挙げている（2012、2013年と地区優勝）。新たなアルファとなるだろうか。

（柏木 亮二）

